

# コロナ対策 & 働き方改革！ テレワーク導入のポイント

## 前編

新型コロナウイルス感染拡大予防や生産性を高める働き方改革などを目的として、「テレワーク」が注目を集めています。一部の業務だけでもテレワークを導入することで、職場内の密を回避し、感染拡大を防ぐ効果が期待できます。

今号と次号の2回にわたり、テレワークを導入するにあたって検討・準備すべき主なポイントを解説します。

西日本電信電話株式会社京都支店  
ビジネス営業部 コーポレートセールス部長  
本山 幸治



## テレワークとは？

新型コロナウイルスの感染拡大を機に、在宅勤務やリモートでの業務実施を採用する企業が増えていきます。企業同士のコミュニケーションにおいても、セミナーや商談を遠隔で実施するなど、移動や対面を前提としないビジネスコミュニケーションが進んできています。また最近「afterコロナ」という新型コロナウイルス感染症がおさまった後にどうするかを想定するのではなく、「withコロナ」、すなわち新型コロナウイルスと共存していく世界を想定することが必要とも言われています。今後予想される感染の再拡大に備えるためにも、テレワークを導入・活用していくことが必要です。

総務省の定義では、**テレワークは「ICT(情報通信技術)を利用し、時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方」**であり、離れた場所においても業務実施可能な環境をICTを活用しつつ整備していくこととされています。テレワークは新型コロナウイルス対策として大

きな話題となつていますが、元々は働き方改革の推進からスタートしています。テレワークの検討は一時的なものではなく、働き方改革も含めた中長期的な考え方に沿って検討する必要があります。そのためには、各企業の実状に合わせたICTを選択し、無理なく導入できることが必要です。

## 導入のための3つのポイント

我々がお客さまのテレワーク導入をご支援させていただく中で、大きく3つのポイントがあると考えています。

はじめは**労務管理をはじめとしたルールの整備**です。例えば、労務時間の管理や労働災害、評価制度などがこれにあたります。

次は**執務環境の整備**です。机や椅子だけでなく、照明や空調など従業員がオフィスと同様、集中して働ける環境がこれにあたります。

最後は**情報通信システムをはじめとしたICTツールの整備**です。普段会社で使っている業務用端末

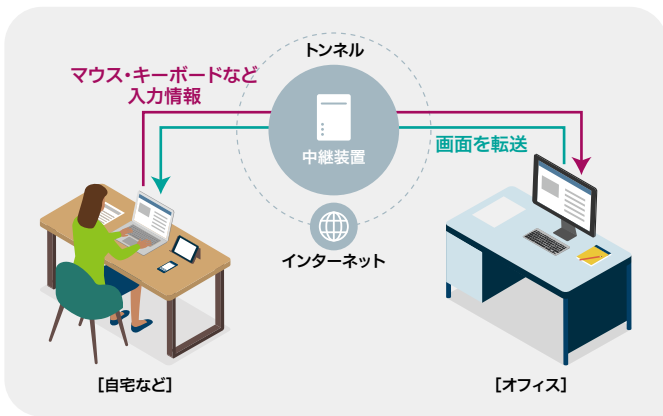
の環境を、いかにしてテレワークでも実現するかであったり、電話やWeb会議、ビジネスチャットなどコミュニケーションを活性化するツールにどんなものを選ぶかなどもこれにあたります。

## 「リモートデスクトップと仮想デスクトップ」

本稿では主にICTツールの整備、その中でもいかにして業務用端末と同じ環境をテレワークで実現するかについてご紹介していきたいと思えます。一般的にテレワークに適している業務は資料の作成やメールの送受信といったデスクワークと言われています。ただし、単純に普段会社で使っているパソコンを自宅に持って帰って使ってもらったり方では、情報漏洩や紛失などリスクがどうしても発生してしまいます。そういったリスクに対応する方法としてリモートデスクトップと仮想デスクトップの2つの方式を紹介します。

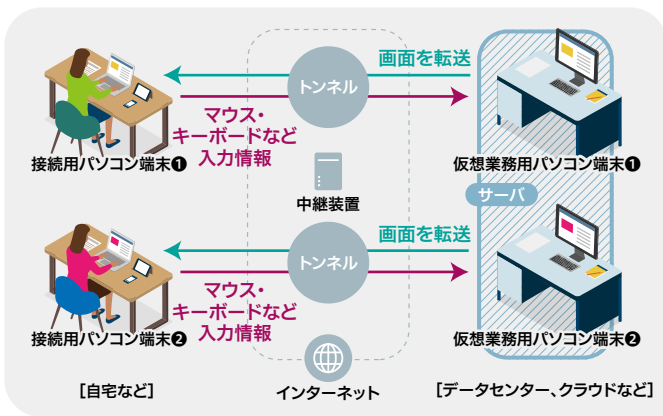
### リモートデスクトップ

自宅や外出先の接続用パソコンなどからネットワークを介して会社内の業務用パソコンに接続することで、普段、会社内にいるときと同じようにパソコン操作ができるようにすることが出来ます。比較的導入しやすい方法として、多くの中小企業で採用されており、特徴としては会社内で使っているパソコンと同じ環境が比較的安価に利用可能になる点があげられます。



### 仮想デスクトップ

上記、リモートデスクトップとよく似ていますが、仮想デスクトップはリモートデスクトップと違い、そもそも接続する業務用端末をサーバ上に仮想的に設置し、そこにユーザが接続する方式を指します。特徴としては、リモートデスクトップよりも比較的高価になることが多いのですが、従業員全員の業務用端末の管理が二元的にできたりするなどのメリットがあります。



NEW WORKING  
STYLE!!



ここまでで、簡単に業務用端末と同じ環境をテレワークで実現するかについてご紹介させていただきました。次号では、同じくリモートワークに必要なってくるWeb会議の仕組みや、テレワーク導入を成功させるために必要なコツについて解説します。

……次号へつづく